



味わい深い立て看板が目印！



## 地域の日常に溶け込む最高のコーヒー。

リコー通りから横道に入っすぐ、すまコーヒーの看板が見える。昭和45年に建てられたなんとも味わい深いこの物件は、不動産会社のweb物件情報で見つけた。「とにかく、家賃が安い！とこの物件に決めた」とマスターの藤井さん。以前は、唐揚げが有名な居酒屋の店舗だったため、壁から床からひどい油污れだったという。当初は表の窓もなく、室内は真っ暗でまさにお化け屋敷のようだった。さらに電圧は20A、古い建物なので電気工事もできない状態。現在もそのまま使っている。（営業中にプレーカーが落ちることもしばしば・・・）しかし、それも愛嬌。この建物が

かもし出す雰囲気は作ろうと思っても作れない、重ねた年月のなせる業。カウンターに座っていると、なんとなく馴染んで落ち着く。「本当にどうしようもない状態だった分、好きにできたから逆に楽しかった」と社長の久保井さんと藤井さんは笑う。リノベーション工程で業者をお願いしたのは、表の窓枠部分のみ。壁・床のペンキ塗りなど、他の部分はすべて自分たちで手を加えていった。开店資金は必要最低限のものを揃えるだけ。唯一、コーヒーを美味しく飲むためのカップにだけはこだわった。久保井さんと藤井さんは、もともと伊豆のクラフトビール・反射炉ピヤのサービスマ



社長の久保井さん！

マスター藤井さん！

ン。退職してから藤井さんは興味のあるコーヒーの世界へ。久保井さんはご両親の経営するスナックを継ぐことを見据え、二人ですまコーヒーを開いた。なによりの開店動機は全国レベルで活躍されている三島のコーヒーロスター、FERRET COFFEEさんとの出会いだ。すまコーヒーの豆はすべてこのFERRET COFFEEさんのもの。この辺りではなかなか飲めないクオリティの高

いコーヒーを活かすレシピを、毎日二人ですり合わせる。感じる味覚が違うので、追及するこだわりに客観性が添加されるのは二人ならではの。オープン当初はひっそりと、まるでLaboのように営業していた。しかし最近では、1日に何度も来店する近所のおじいちゃんや、毎日通ってくれる常連さんもある。話しているのは他愛もないこと、でも飲んでいるのはスペシャルティのコーヒー、という環境がなんだかいいなあ、と久保井さん。お客さんとの距離が近いのはスナックも同じ。独特のスナック文化とスペシャルティコーヒーを新しい形で伝えていきたいと考えている。



	すまコーヒー
沼津市高島町27-2 TEL 090-7313-1000 <a href="http://sumacoffee.jimdo.com">http://sumacoffee.jimdo.com</a> 7:00~20:00 (19:30 ラストオーダー) 定休日：水曜	
	